

令和2年度第1回 丹波篠山市の産科充実に向けての検討会 (要旨)

日 時 令和2年5月30日(土) 19:00～21:00
場 所 丹南健康福祉センター2階研修室
出席委員 酒井隆明、芦田定、小嶋敏誠、西瀧弘、遠山泉美、太田鈴子、
畑弘恵、松本正義、稲川沙弥佳、中嶋唯、岩田瑞希、深田和泉、
高瀬晶子、成瀬郁
稲川なをみ、加古佳与子、田村博子、土性里花
顧 問 小西隆紀
兵 庫 県 元佐龍
欠席委員 平野斉、
事 務 局 横山実、山下好子、吉田久仁子、堂東美穂、小西雅美、仁木秀樹

会議資料

- ・資料1 「丹波篠山市の産科充実に向けての検討会(専門部会)のまとめ」
- ・資料2 「主要医療機関の協議結果」
- ・資料3 「市内の出生状況について」
- ・資料4 「産後ケア事業実績まとめ」
- ・資料5 『丹波篠山市「My助産師ケアセンター」設置について』
- ・資料6 「My助産師ケアセンター～出産～産後の流れ(案)～」

1. 開会

- ・開会
委員長及び副委員長の選出
委員長 酒井隆明委員
副委員長 土性里花委員
- ・市長あいさつ

2. 産科事業の状況報告 山下課長 説明

- | | |
|-------------------------|------|
| 1) 出産支援金 (令和元年10月から開始) | 138件 |
| 2) お産応援窓口(産前2回、産後1回のケア) | 5名 |
| 3) お産応援119(登録者数) | 71件 |

3. 専門部会からの報告

- ・堂東係長 説明・・・・資料1
- ・山下課長 説明・・・・資料2、資料3、資料4

4. 意見交換

委員：主要医療機関との協議について、タマル産婦人科との協議行ったのか。

事務局：タマル産婦人科及び兵庫医科大学ささやま医療センターとは協議を行った。タマル産婦人科、ささやま医療センターの産科医から、産後ケアについては市で行うことについて賛成していただいた。

委員：受け入れ側の医療機関がどのように考えていたか気になっていたので、主要医療機関と協議したことはよかった。My助産師制度で相談できる体制が整うことはよい。

委員：My助産師制度では、医療機関の弱いとことである心のケアができるということは心強い。

委員：分娩を伴わないのに、助産所と呼ぶのか。
事務局：分娩をしなくても、助産所呼ぶことができ、助産所を開設することによって、助産師主導で検診をすることができる。

委員：第2子、第3子になる場合、第1子の面倒をみる必要があるため、健診時の第1子の面倒についても検討いただきたい。

委員：丹波地域に地域周産期母子医療センターができないのはなぜか。
県職員：丹波医療センターは、協力病院として一定のハイリスクの方も対応いただいているが、スタッフの人数の問題がありNICUは未設置である。

委員：妊婦さんは、My助産師ケアセンターで健診を受診することができるのか。

事務局：医療に関する検診は、医療機関で受診していただくことになる。My助産師ケアセンターでは、保健指導を行い、健診としては産後の2週間検診を考えている。

委員：丹波篠山市でオープンシステムを行うのは、まだハードルが高いと考えるが、My助産師ケアセンターで助産師が継続して関わっていくことが重要だと思う。

委員：丹波地域では助産所がないが、今後、理解を深めてオープンシステムへ繋がっていけばよい制度にあると思う。

委員：ケアを必要とされる方が、専門家に些細なことでも気軽に聞くことができるので、My助産師制度はよいと思う。

委員：この検討会で決定した施策を全国に情報発信していければよいと考える。

委員：母子健康手帳を交付する時にMy助産師制度を説明されるが、丹波篠山市に転入した時にこの制度があることを教えていただけるようにしていただきたい。

事務局：転入された時にお伝えできるように検討する。

委員：My助産師ケアセンターで、産前の定期健診はできるのか、入院できるのか、My助産師のケアはいつまで続くのか。

事務局：定期健診はかかりつけ医で受診をお願いしたい。

My助産師ケアセンターでは入院はできない。

My助産師のケアは産後1年までの期間となる。

委員：産科医療を短期、中期、長期的に10年20年期間で考えていく必要がある。

委員：My助産師ケアセンターでは医療を行うのかケアを行うのか。

ケアの場合、費用はかかるのか。ゆくゆくは分娩を検討されているが人材確保を考える必要もあるのではないか。

事務局：My助産師ケアセンターは医療施設ではなくケアを行う施設である。助産所を立ち上げることにより健診ができるようになる。分娩については、現時点では考えていない。行政サービスとして健診を行えば費用は必要になる。助産師の人材確保は、課題として認識している。

委員：愛育会として、My助産師ケアセンターを後押しできるように協力させていただきたい。

委員：My助産師制度はよい取り組みだと考えている。母親学級をアプリで実施しているということを知ったことがあるので、アプリを使用して相談ができればよいと思う。健診に行く時に、医療施設まで行くのに車がないと行けないので公共交通機関も検討いただきたい。

委員：My助産師ケアセンターが計画にあがって、一歩進んだことは喜ばしい。人材育成も考えていただきたい。

県職員：検討の結果、一定の結論が出て県としても感謝している。助産師の方々をめぐる現状について、県として今年度2つの新規事業を実施する。一つは周産期の医療人材の専門家会議野中でMy助産師制度についての検討会を始める。2つ目としてオープンシステムは難しいと考えているが、院内助産・助産外来の増加に向けた支援を行っていくこととしている。助産師と産科医の連携を広げていきたい。

委員：助産師確保や助産師の人件費を考えていただきたい。

5. 丹波篠山市「My 助産師ケアセンター」設置について

山下課長 説明・・・資料5、資料6

(質疑応答)

委員：My 助産師ケアセンターの建設について、建築費や運営費、収入源はどのように考えているのか。

事務局：設計業務委託費で約1千万円を計上しており、積算はしていない。産後ケアを行うにあたり、宿泊できる部屋や診察室を考えると診療所に近いものになるし、2階建てならばエレベーターも必要になる。市の財政状況や規模に合わせたところで設計をしていきたい。建設費用については、特定財源で予定している財源や、応援していただける財源もあるため、市の持ち出しを少なくできるように考えている。運営費については、助産師やスタッフの人件費や所経費があり、相当な費用がかかること考えている。それに比べて収入源については、健診ができるようになると健診費を利用者から得ることができるかと想定はできるがほとんどが市の持ち出しとなると考える。

委員：My 助産師ケアセンターの次の議論として、助産所（分娩した施設）や、宿泊を考えたりするのであれば助産所に向かっていくかを検討すべきではないか。分娩できる助産所であれば、ケアセンターとは違ってくる。将来できるかできないものに多額の費用を費やすのはどうかと考えるが。まずは、ケアセンターを運営して、分娩施設が必要になればその時に検討すべきだと考える

事務局：産後ケアができる施設を考えており、分娩できる施設は考えていない。

委員長：大きな建物を建築して、将来的にバースセンターにしようとは考えていない。検討会で当初は、バースセンターやオープンシステムを検討したが、他の医療機関との安全な医療体制を構築できないことは理解しているので、今できる最善の策として、My 助産師ケアセンターの建設を考えている。

どこで、どんな建物でどういう構造にするかということは、現時点では構想を練っていない。ただ、そのような状態が続くと先になって来年になってもまだ何も形にならない。当初は、来年の4月から何らかのことを実施したいと考えていたので、今からでは4月には間に合わないが、少しでも進めるために、6月議会で設

計の予算提案をさせていただいた。建設場所やどのような建物にするかということについては、市の職員の中でプロジェクトチームを結成して検討していきたい。

委員：箱物とMy助産師ケアセンターは別で考えるべきであって建物ありきで考えるべきではない。

せっかくよいMy助産師制度があるのに、これだけ費用がかかるのであればやめたほうがよいということにも成りかねないと考える。まず、My助産師制度を定着させることが重要である。建物を建設することは別で検討すべきである。

委員長：専門部会の中で、将来的にそのような施設が必要であるという意見であった。産後に実家に帰ったような雰囲気の中でゆっくり休んでいただける施設となる。

委員：建物の建設については、この検討会の中で判断させていただいてもよいのではないか。専門部会の意見も今日、ご説明いただいたばかりで、専門部会だけで判断するのではないのではないか。

委員長：丹波篠山市の施策としてこの分野は、一番大事である。

多額の費用を支出して、分不相応な施設を建設する気はない。少なくとも丹波篠山市に住んでいただく方に、若い方を中心に丹波篠山市では分娩できる場所は非常に限られているが、住みよい産み育てやすいところだと評価していただくのが何より大事だと考える。

どの自治体も一番力を入れているところで、せめて、このような子育て施設を他市に引けを取らないようにしたい。建設にあたっては、国や県の財源を使って一般財源に大きく影響のないようにする必要がある。分娩できなくなったけれども、丹波篠山市として出産しやすい体制を構築したい。

委員：分娩できる施設ではないのか。

委員長：分娩できる施設ではない。

委員：My助産師ケアセンターの建物をつくるということか。

委員長：そのとおり。

委員：もう少し実績をつくってから検討してもよいのではないか。宿泊にしても、多額の費用をかけることになる。My助産師制度が広まっただけからでもいいのではないかと考える。

事務局：My助産師制度を中心に行っていく事で考えている。現在は、丹南健康福祉センターですべての乳幼児健診、母子事業を行い、「ふたば」も設置している。My助産師制度は丹南健康福祉センター内で、8月

から予定しているが、職員が増える中、物理的に狭く十分なケアが行えない状況にある。My 助産師ケアセンター（仮称）のコンセプトは、「第2の実家」宿泊ケアも可能で、ゆったりとしたケアができるようにするためには「助産所開設」が必要。これには施設要件があるため、「箱モノ」を整える必要はある。

委員：宿泊とゆったりした日帰りとは、コスト面で違ってくるので検討いただきたい。

委員長：まず設計に取り掛かって、検討していきたい。建てるとなるとその費用を市民に明らかにしていかななくてはならない。再生計画にもかけて了解を得なければならない。

顧問：先に新聞に出たのはまずかった。今回、着地点として、現実的なところに落ち着いた。新型コロナで、「人が足らん」「医者が足らん」とどういことが起こるかを皆、身に染みたと思う。「人がいない」事に対して「人を育てる」にはまだ数年かかる。今回の My 助産師センター（仮称）についても、建物はまだ確保できるだろうが、人（人材）が継続してしっかりと確保できるようにしていただきたい。「第2の実家」「実家のように」のコンセプトは丹波篠山らしくてとても良い。これについては、今後いろんな部署で考えていく事が重要。「箱モノ」に関しては、空き家の活用も考えていく事。市内で医院を閉めているところもある。古民家でもよい。しっかりと検討してほしい。

委員長：今後も検討会は最後までお付き合いください。どこに建てるか、どこが有効活用できるか、もう少し煮詰めてから次回検討会を開催したい。